授業科目	＊保育原理					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	必修	開講年次	1	開講時期	前期
担当教員	末嵜　雅美						
授業概要	保育者となる上で、保育の基礎的な知識や考え方を身につけ、保育の専門家としての自覚の深化を促す授業である。 新たな時代における保育の意味を問うことを通し、これからの保育の在り方や保育者としての課題を理解し、解決する能力を獲得する。 講義は、配布されるノートプリントに基づき行う。ノートプリントは適宜提出を求める。 Google フォームを用いた振り返りのための小テスト(授業内)・期末テストを実施する。						
授業形態	講義				授業方法	Google フォームを用いて、振り返り学習を行う	

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1. 保育の基礎的な知識を身につける 2. 子どもと向き合う態度の基盤として「子ども理解」を身につける 3. 保育を取り巻く様々な状況に関心を持つ 4. 目指す保育者像を持てるようになる 1. 保育に必要な基本的知識を身につけ、「子どもとはこういうもの」という子ども理解を持つことが出来る 2. 保育現場で自己をふり返りながら子どもと関わる事が出来る 3. 日頃から保育や子育てをめぐる様々な問題に関心を持てるようになる
理想的レベル	1. 現代の保育や子育てをめぐる状況に課題的関心を持って解決しようとする態度を身につける

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	35%	
小テスト	25%	
レポート	10%	
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物	20%	ノートプリントの作成
その他	10%	質問やコメントなど積極的な授業態度

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	CH21102J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
授業に出たキーワードについて自分で調べる	4

授業計画	
第 1 回	はじめに 授業の進め方、ノートプリントについての説明 「保育」のとらえ方、保育の意義と概念

＊保育原理

第 2 回	保育の場（1） 幼稚園、保育所、認定こども園のそれぞれの制度の違い 保育の役割、保育の仕事とは
第 3 回	保育の場（2） 制度の具体的な違いについて、外国の制度との違い、地域と保育
第 4 回	子ども理解と保育（1） 保育に求められる子ども観、「子どもらしさ」とは何か、子どもらしさの保障
第 5 回	子ども理解とは（2） 子どもの最善の利益と発達を促す関わり 発達を捉える視点
第 6 回	保育の歴史について（1） ルソー、フレーベルの「キンダーガルテン」、モンテッソーリなど
第 7 回	保育の歴史について（2） 東京女子師範学校附属幼稚園 フレーベル主義への批判と倉橋惣三の「誘導保育論」 【小テスト①の実施】
第 8 回	保育内容と保育の方法（1） 保育の基本的原理と方法的原理
第 9 回	保育内容と保育の方法（2） 保育の形態について、保育内容について事例から考える
第 10 回	保育の評価、幼児教育としての保育 保育の評価の方法、「10 の姿」とは何か
第 11 回	子育て支援と保育（1） 国の少子化対策や子育て支援について、子育てを巡る現代的課題
第 12 回	子育て支援と保育（2） 待機児童問題と様々な保育ニーズ、地域における子育て支援の実践
第 13 回	保育における安全管理－保育現場でのリスク管理とは 【小テスト②の実施】
第 14 回	これからの保育の課題とは SDGs と保育、多様性を認める保育とは
第 15 回	授業のまとめ
テキスト	指定テキストは無いが、参考になる書籍・資料については適宜授業内で提示する
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	その他、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」など必要な資料は授業内で適宜指示をする。

課題に対するフィードバックの方法	小テストは Google フォームで行い、採点後は返却します。約 1 ヶ月ほど確認できるよう設定していますので各自必ず確認すること。 ノートプリントについては、期末試験後の提出となります。
学生へのメッセージ・コメント	保育に関わる基本的な用語や概念を学ぶ授業である。この授業を通して、保育への知識だけで無く、子どもの育ちを支える大人になるために必要な視点を持ち、望ましい態度を身につけて欲しい。